



地域の未来を考えよう！

ひなたまちづくり応援シート

利用の手引き ver2.0

宮崎県 中山間・地域政策課

目次

はじめに.....	1
解 説 編.....	2
1. 応援シートの構成.....	3
2. 現況シート	4
3. 将来予測シート①.....	12
4. 将来予測シート②.....	20
5. 地域特徴シート.....	26
活 用 編.....	32
1. 応援シートを活用した地域での話し合い.....	33
2. ステップ1ー準備編ー.....	34
3. ステップ2ー話し合い編ー.....	35

はじめに

○ひなたまちづくり応援シート（以下、応援シート）は、地域の課題や将来の姿を“見える化”することで、地域に住むみなさんが、今後どのような活動や助け合いが必要になるかを話し合うための資料です。

○この利用の手引きは、「解説編」と「活用編」で構成されています。

○「解説編」では、応援シート内にあるグラフや数字の意味等を解説します。

○「活用編」では、応援シートを活用し、地域で話し合い（ワークショップ）を行う場合の進め方や、話し合いのポイントについて説明します。



応援シートのグラフや数字の見方について知りたい方は
『解説編』（2ページ～）へ、
応援シートを活用した話し合いの
すすめ方などを知りたい方は
『活用編』（32ページ～）に
進んでください。

解 説 編

1. 応援シートの構成

応援シートは、以下の5つのシートで構成されています。なお、応援シートで示すグラフや数字は、平成22年（2010年）～令和2年（2020年）の国勢調査の結果に基づいています。

シート名	内容
現況シート	2010年～2020年の地域における人口や子どもの数、高齢化率の推移など。
将来予測シート①	これまでの傾向が今後も続くとした場合の、2025年～2040年の地域の人口や子どもの数、高齢化率などを推計した結果。
将来予測シート②	移住者の受入を進めた場合の、2025年～2040年の地域の人口や子どもの数、高齢化率などを推計した結果。
地域特徴シート	地域の特徴について、世帯構成や職業構成などを、県や自治体の平均値と比較した結果。
おわりに	地域の維持・活性化に向けて、自分たちで出来そうなこと、行政にサポートして欲しいことを話し合うシート。



次のページから、各シートにあるグラフや数字の見方を解説します。

2. 現況シート

現況シートは、過去からこれまでの総人口の推移などを掲載したシートです。

(1) 総人口

- 総人口のグラフは右ページのようなグラフになっています。横軸は、2010年、2015年、2020年を表しており、縦軸が人数を表しています。
- 青色が男性、ピンク色が女性で、それぞれのグラフの中に、人数が書かれています。
- また、棒グラフの上に書かれた数字は、男性と女性を合計した総人口です。
- このグラフから、10年間での総人口の変化だけでなく、男性・女性別の変化を知ることができます。
- 例えば、右ページのグラフからは、以下のようなことが読み取れます。

<グラフから読み取れることの例>

- この地区の2020年の総人口は1,719人で、男性が771人、女性が948人となっている。
- 2010年と2020年を比較すると、この10年間で総人口は451人減少している。
- グラフの推移を見ると、総人口の減少は、2010年から2015年にかけてよりも、2015年から2020年は緩やかになっている。

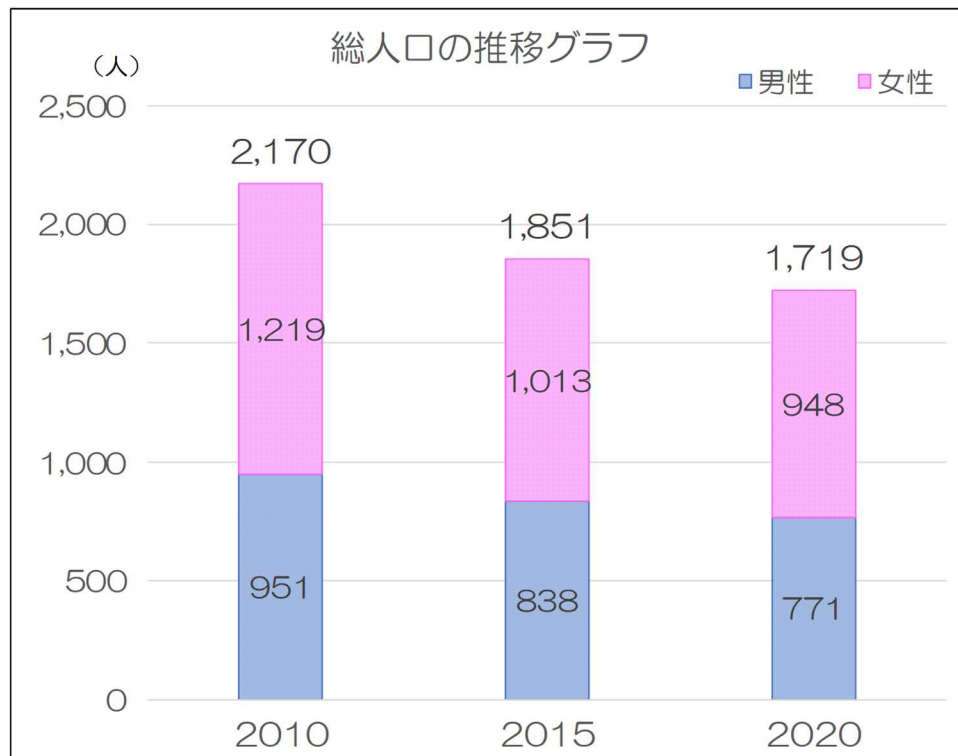
【現況シート 総人口のグラフ】

それでは、まず、

〇〇地区 の「今」を確認してみましょう。

①**総人口**

2020年 の総人口は、 **1,719** 人です。
2010年 と比べ **-451** 人となっています。
男性は、 **-180** 人、女性は、 **-271** 人です。



Q. この10年で人口がどのように推移した理由は何だろう？

(2)子どもの数

- 子どもの数のグラフは右ページのようなグラフになっています。上段が、小学生（7歳～12歳の人口）のグラフ、下段が中学生（13歳～15歳の人口）のグラフです。
- このグラフから、10年間での子どもの数の変化を知ることができます。
- 例えば、右ページのグラフからは、以下のようなことが読み取れます。

<グラフから読み取れることの例>

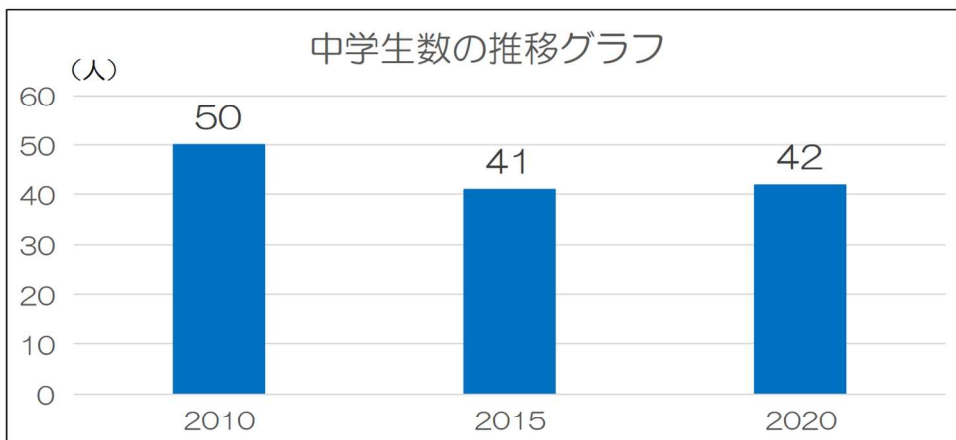
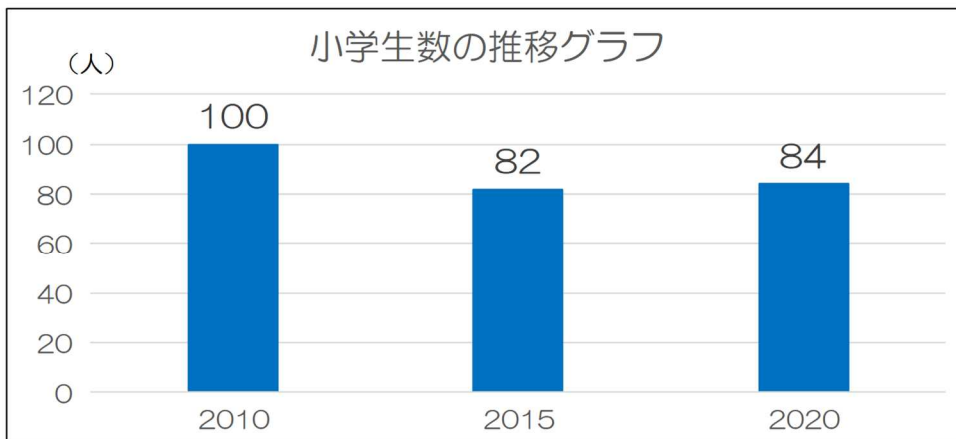
- この地区の2020年の小学生数は84人、中学生は42人となっている。
- 2010年と2020年を比較すると、この10年間で小学生の数は16人、中学生の数は8人減少している。
- しかし、直近の5年間で見ると、小学生・中学生ともに微増となっている。

【現況シート 子どもの数のグラフ】

②子どもの数

小学生にあたる7～12歳の人口は、**84** 人です。
中学生にあたる13～15歳の人口は、**42** 人です。

2010年 と比較すると、
小学生は、**-16** 人、
中学生は、**-8** 人となっています。



Q. 子どもの数がこのように推移したことで、地域にどんな変化が起きたらろう？

(3) 高齢者の数

- 高齢者に関するグラフは右ページのようなグラフになっています。上段が 65 歳以上の方の総人口に占める割合のグラフ、下段が 75 歳以上の方の総人口に占める割合のグラフになっています。
- このグラフから、10 年間での高齢化率の変化を知ることができます。
- 例えば、右ページのグラフからは、以下のようなことが読み取れます。

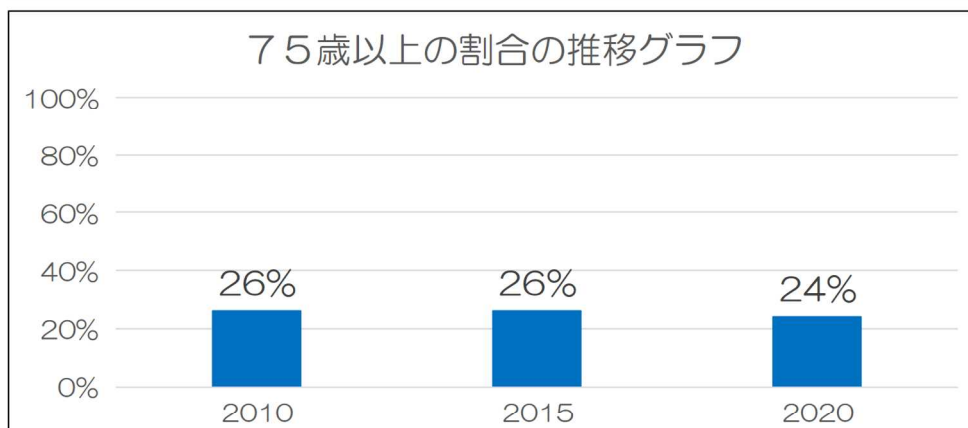
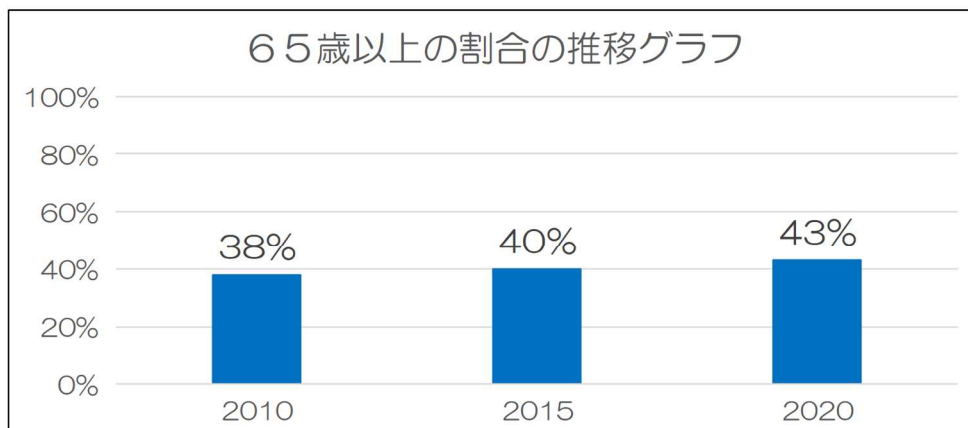
<グラフから読み取れることの例>

- この地区の 2020 年の 65 歳以上割合は 43%となっており、10 人中 4 人以上が 65 歳以上となっている。
- 一方、75 歳以上割合は 24%となっている。
- 2010 年と 2020 年を比較すると、65 歳以上割合は 38%から 43%へと 5ポイント上昇している。75 歳以上は 26%から 24%へと 2ポイント低下している。
- 直近 5 年間では、75 歳以上の人口割合は低下しているものの、65 歳以上の人口割合が上昇していることから、75 歳以上の人口割合は今後上昇していくことが予想される。

③高齢者の数

65歳以上は、**745** 人で総人口の **43%** です。
75歳以上は、**419** 人で総人口の **24%** です。

2010年 と比較すると、
65歳以上の割合は、**5ポイント上昇** です。
75歳以上の割合は、**2ポイント低下** です。



Q. 高齢化率がこのように推移したことで、地域にどんな変化が起きたらろう？

(4)人口ピラミッド

- 人口ピラミッドは右ページのようなグラフになっています。上段が2010年における人口ピラミッド、下段が2020年における人口ピラミッドになっています。
- 人口ピラミッドは、5歳階級ごとの人口を、男性と女性に分けて示したグラフのことです。左（緑のグラフ）が男性、右（赤のグラフ）が女性を示しています。
- 例えば、右ページのグラフからは、以下のようなことが読み取れます。

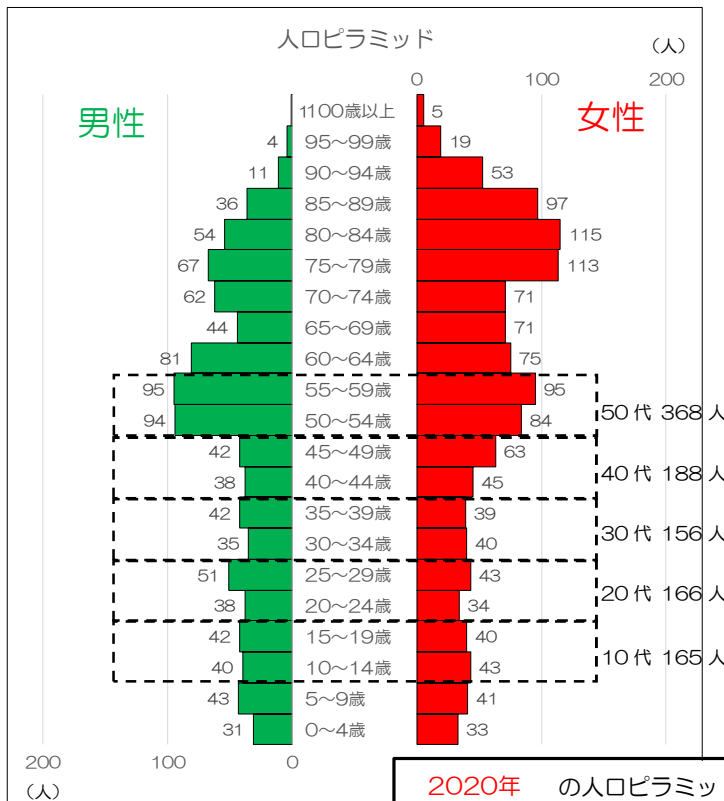
<グラフから読み取れることの例>

- 2010年と2020年における20代、30代、40代、50代の人数を比較すると、それぞれ、102人、11人、21人、201人の減少となっている。
- 2010年時点で10代であった人たちは、2020年には20代になっているが、その人数を追跡すると、165人から64人へと101人減少しており、他の世代と比べ減少量が最も大きい世代となっている。この地域の10年間における人口減少は、10代から20代になる中で進学や就職等で地区外へ転出し、その人たちが戻ってこないことが大きな原因になっていることが読み取れる。
- 徐々に人口ピラミッドが、すり鉢型になってきており、高齢者が多く、若い人が少ないといった人口構成になってきている。

【現況シート 人口ピラミッドのグラフ】

④人口ピラミッド

2010年 の人口ピラミッドは次のようになっています。

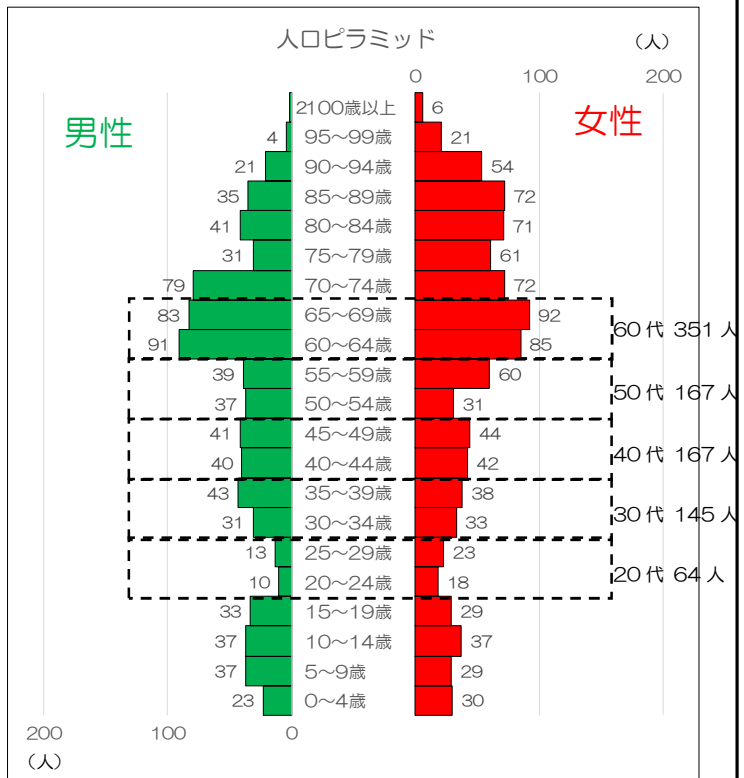


世代における人口変化量を整理した表

2010年	→	2020年	2020-2010 (人)
10代		20代	-101
20代		30代	-21
30代	→	40代	11
40代		50代	-21
50代		60代	-17

2020年 の人口ピラミッドは次のようになっています。

2010年 と比較すると、20歳代は、 -102 人、
30歳代は、 -11 人、40歳代は、 -21 人、
50歳代は、 -201 人となっています。



3. 将来予測シート①

将来予測シート①は、これまでの人口推移の傾向が今後も続いた場合の将来予測結果を掲載したシートです。

(1) 総人口

- 総人口のグラフは右ページのようなグラフになっています。グラフのつくりは、現況シートと同じですが、2025年からは将来予測の結果となっています。
- 例えば、右ページのグラフからは、以下のようなことが読み取れます。

<グラフから読み取れることの例>

- この地区の2030年の総人口は1,331人で、2020年よりも388人減少する。また、2040年には992人になり、2020年よりも727人減少する。
- 総人口は、2040年には1,000人を下回る見込みである。

【将来予測シート① 総人口のグラフ】

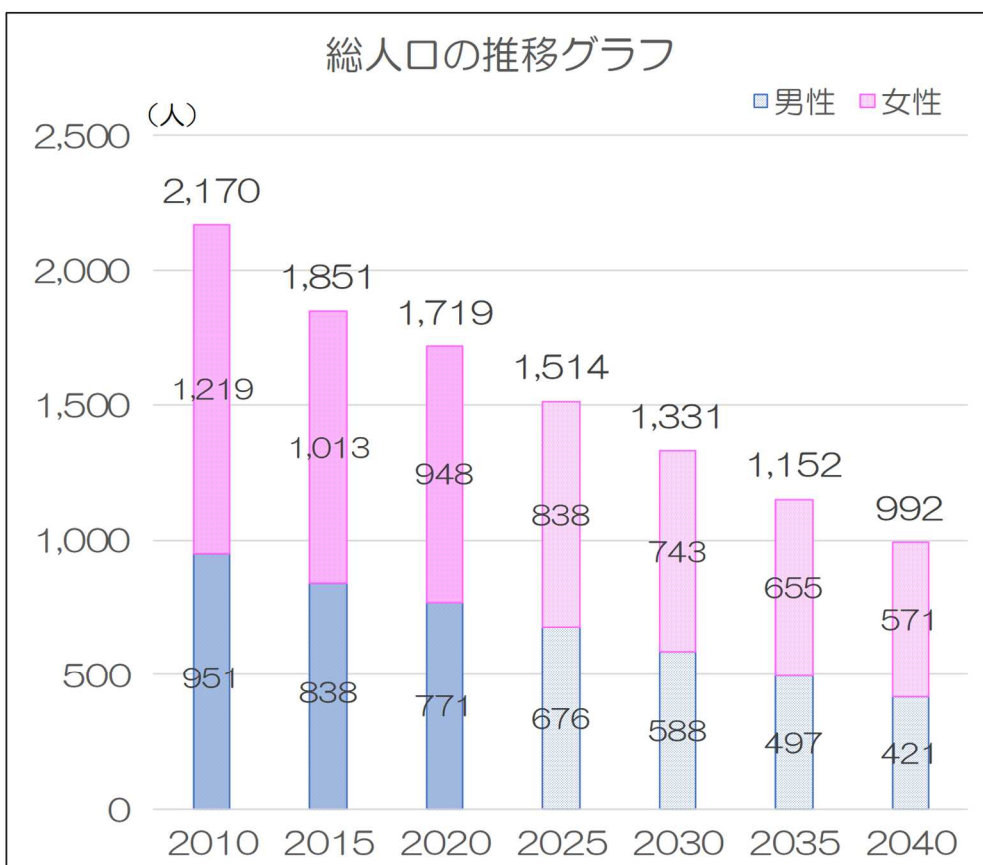
それでは、次に、これまでの傾向が続いた場合、

〇〇地区 の将来人口はどうなるのでしょうか？

①総人口

2030年 は、 1,331 人と予想されます。
 2020年 よりも -388 人となる見込みです。
 男性は、 -183 人、女性も、 -205 人です。

2040年 は、 992 人と予想されます。
 2020年 よりも -727 人となる見込みです。
 男性は、 -350 人、女性も、 -377 人です。



(2)子どもの数

- 子どもの数のグラフは右ページのようなグラフになっています。グラフのつくりは、現況シートと同じですが、2025年からは将来予測の結果となっています。
- 例えば、右ページのグラフからは、以下のようなことが読み取れます。

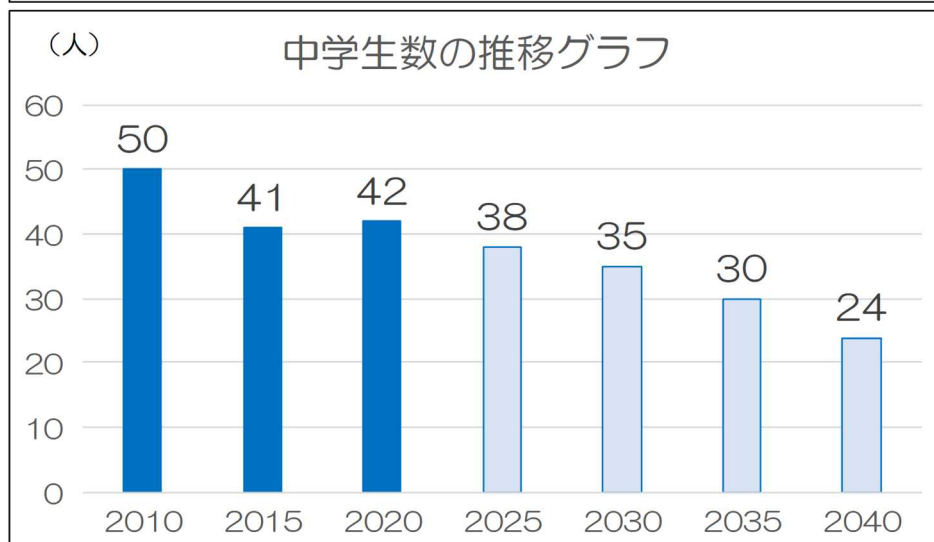
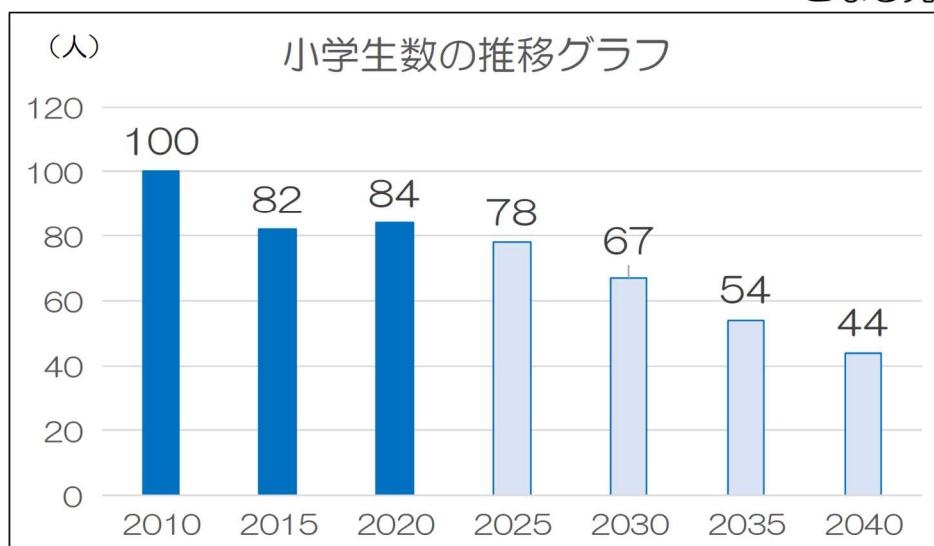
<グラフから読み取れることの例>

- この地区の2040年における小学生数は44人、中学生は24人となっている。
- 2040年と2020年を比較すると、小学生の数は40人、中学生の数は18人減少する見込みである。
- 小学生、中学生ともに2020年の約半数となるため、小学校や中学校の存続が問題になる可能性がある。

②子どもの数

2040年 には、
小学生にあたる7～12歳の人口は、 **44** 人、
中学生にあたる13～15歳の人口は、 **24** 人と
予想されます。

小学生は、 **2020年** よりも **-40** 人、
中学生は、 **2020年** よりも **-18** 人
となる見込みです。



(3)高齢者の数

- 高齢者に関するグラフは右ページのようなグラフになっています。グラフの作りは、現況シートと同じですが、2025年からは将来予測の結果となっています。
- 例えば、右ページのグラフからは、以下のようなことが読み取れます。

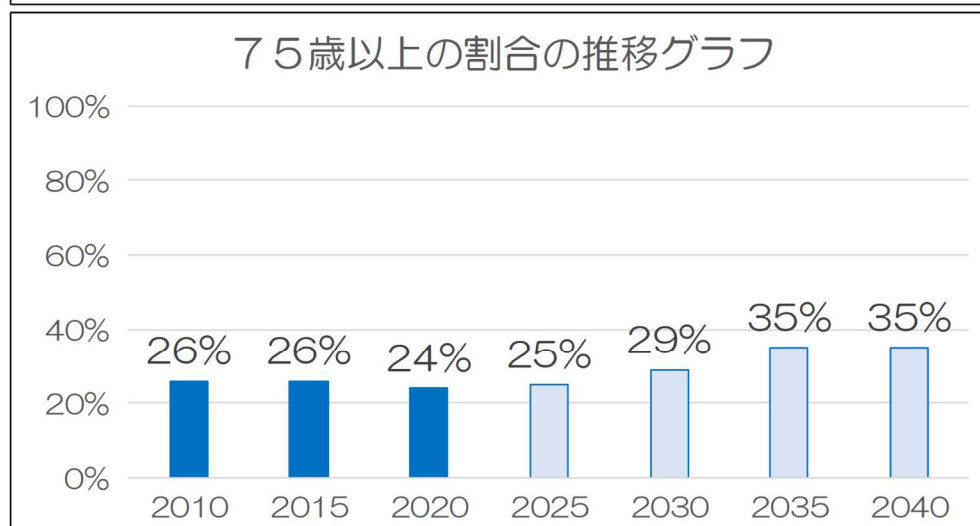
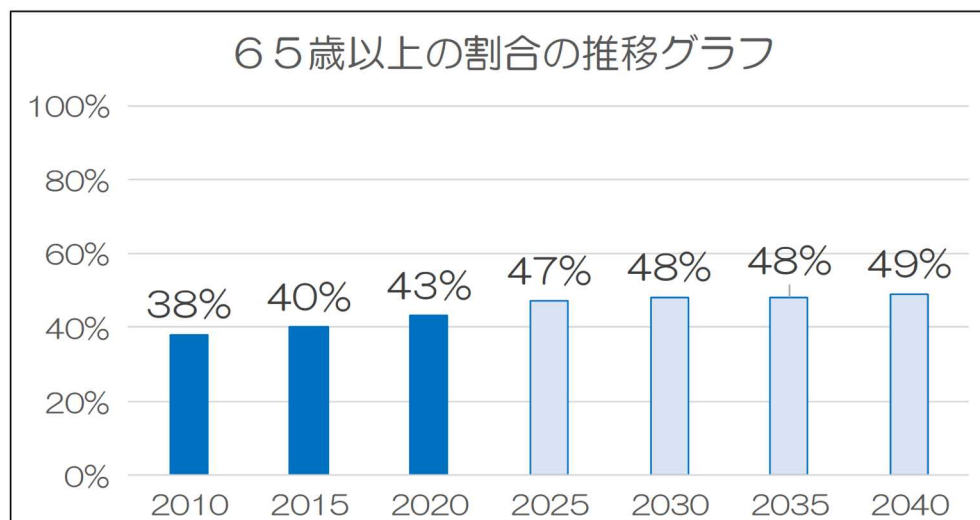
<グラフから読み取れることの例>

- この地区の2040年における65歳以上割合は49%となっており、2人に1人は65歳以上となる見込みである。
- 一方、75歳以上割合は35%となっている。3人に1人は75歳以上である。
- 2020年と2040年を比較すると、65歳以上割合は43%から49%へと6ポイント上昇する見込みである。75歳以上は24%から35%へと11ポイント上昇する見込みである。

③高齢者の数

2040年 には、
65歳以上は、 487 人で総人口の 49% 、
75歳以上は、 348 人で総人口の 35% と
予想されます。

2020年 と比較すると、
65歳以上の割合は、 6ポイント上昇 です。
75歳以上の割合は、 11ポイント上昇 です。



(4)人口ピラミッド

- 人口ピラミッドは右ページのようなグラフになっています。グラフのつくりは、現況シートと同じですが、2030年と2040年の人口ピラミッドが示されています。
- 例えば、右ページのグラフからは、以下のようなことが読み取れます。

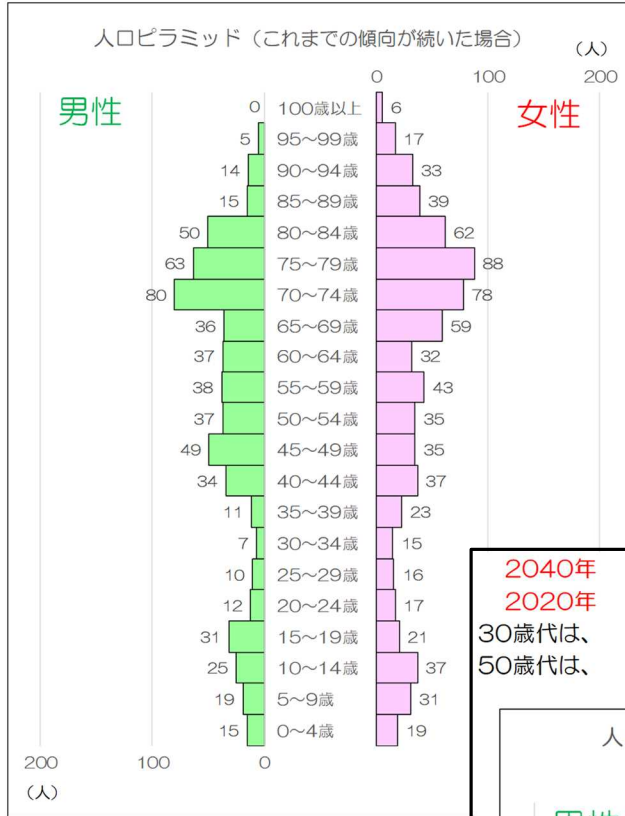
<グラフから読み取れることの例>

- 2030年には、男性・女性ともに70代が最も多くなっており、20代・30代が非常に少ない人口構造になっている。
- 2040年には、男性・女性ともに80代が最も多くなり、20代~40代が非常に少ない人口構造へと変化していくことが見て取れる。

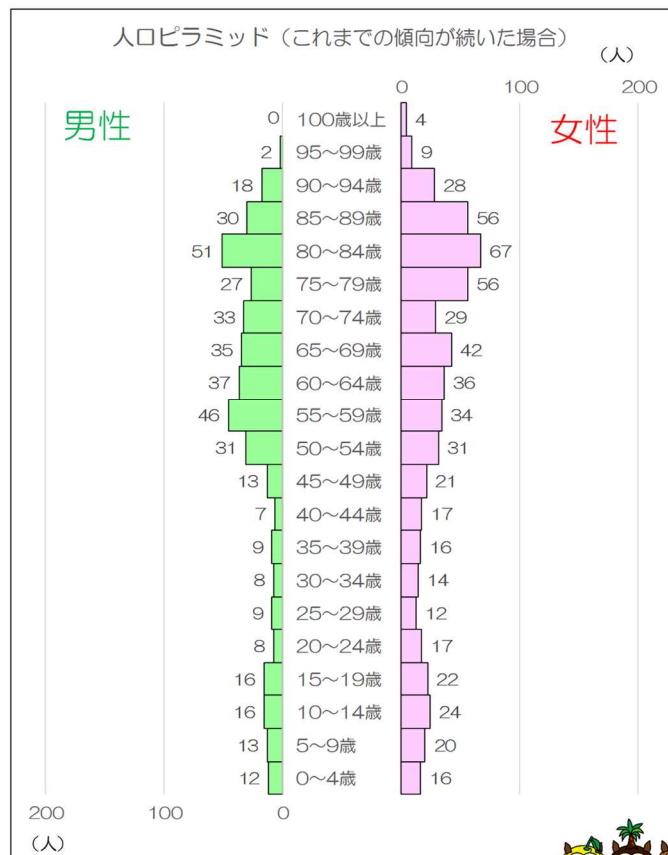
【将来予測シート① 人口ピラミッドのグラフ】

④人口ピラミッド

2030年 の人口ピラミッドは、次のようになります。
 2020年 と比較すると、20歳代は、 -9 人、
 30歳代は、 -89 人、 40歳代は、 -12 人、
 50歳代は、 -14 人となっています。



2040年 の人口ピラミッドは、次のようになります。
 2020年 と比較すると、20歳代は、 -18 人、
 30歳代は、 -98 人、 40歳代は、 -109 人、
 50歳代は、 -25 人となっています。



4. 将来予測シート②

将来予測シート②は、移住者の受入を進めた場合の将来予測結果を掲載したシートです。そのため、まずこのシートでは、どの程度の移住者を受入れるかについて話し合い、移住者数を設定してもらう必要があります。

(1) 移住者数の設定

- 移住者数設定シートは右ページのようにになっています。
- グレーの入力例の欄には、5年間で20代後半の夫婦2組、40代前半のシングルマザーを受入れると考えた場合の設定方法が示されています。
- また、下の【参考】には、2020年における人口規模を概ね保つために必要な受入数を試算した結果が示されています。
- 【参考】に示された試算結果や、地域での現状を踏まえて、5年間で受入可能な移住者数を赤枠の欄に入力してください。
- そうすると、以下のグラフや数字は、設定した移住者数を受入れた場合の予測結果になります。

※なお、23、25ページに示すグラフでは、【参考】で示された2020年の人口規模を概ね確保するために必要な人数を設定した場合のグラフ等を示していくことにします。

【将来予測シート② 移住者数設定シート】

次に、移住者の受入を進めた場合に、

〇〇地区 の将来人口がどう変わるかを見てみましょう。

移住者数の設定

はじめに、どの程度の移住者を受入れるかを設定しましょう。

【移住者数の入力方法】

移住者数を、右の赤枠で囲まれた表内に入力します。

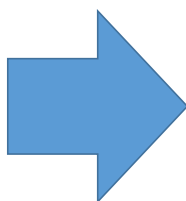
例えば、5年間で

- ・20代後半の夫婦2組（1組は4歳以下の男の子、もう1組は4歳以下の女の子がいる家族）
- ・40代前半のシングルマザー（10～14歳の男の子1人と女の子1人がいる家族）

を受入れる場合は、以下のように入力します。

入力例		
入力例	男性	女性
0～4歳	1人	1人
5～9歳		
10～14歳	1人	1人
15～19歳		
20～24歳		
25～29歳	2人	2人
30～34歳		
35～39歳		
40～44歳		1人
45～49歳		
50～54歳		
55～59歳		
60～64歳		

皆さんで話し合っ
て、移住者数を設定
してみましょう！



移住者数入力表		
	男性	女性
0～4歳		
5～9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～24歳		
25～29歳	20人	20人
30～34歳	20人	20人
35～39歳	20人	20人
40～44歳		
45～49歳		
50～54歳		
55～59歳		
60～64歳		

【参考】 **2020年** における人口規模を概ね維持する場合の受入数の試算

※なお、**2020年** における総人口規模および小中学生数を概ね維持しよう
とした場合、5年間で移住受入数を試算すると以下のようになります。

（20代後半～30代の年齢層の男女をそれぞれ同数ずつ受入れると仮定）

移住者数入力表		
	男性	女性
25～29歳	20人	20人
30～34歳	20人	20人
35～39歳	20人	20人



	総人口（人）
2025年	1,634
2030年	1,620
2035年	1,627
2040年	1,657

上の赤枠の欄にこれらの数字を入力して確かめてみよう！

(2)総人口

- 総人口のグラフは右ページのようなグラフになっています。グラフのつくりは、現況シート、将来予測シート①と同じですが、2025年からは、将来予測シート①でのこれまでの傾向が続いた場合の予測結果と、移住受入を進めた場合の予測結果が並べて表示されています。
- 例えば、右ページのグラフからは、以下のようなことが読み取れます。

<グラフから読み取れることの例>

- この地区では、5年間で20代後半、30代前半、30代後半の男女をそれぞれ20人ずつ受入れることで、2020年と概ね同規模の人口を今後も維持できる。
- 移住受入を進める場合、これまでの傾向が続く場合に比べ、2030年で289人、2040年で665人も増加する結果となっている。

【将来予測シート② 総人口のグラフ】

①総人口

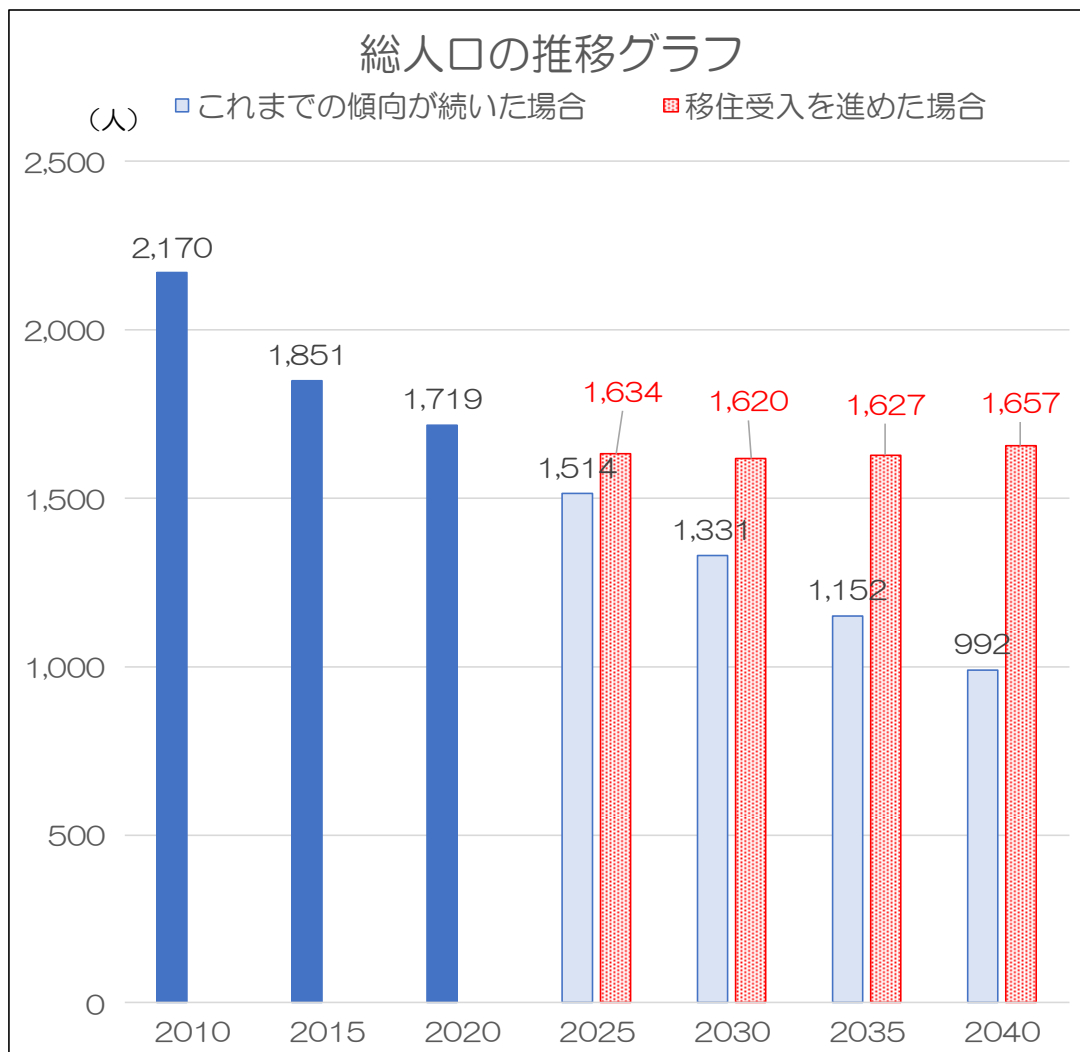
2030年 は、 1,620 人と予想されます。

2040年 は、 1,657 人と予想されます。

これまでの傾向が続く場合に比べ、

2030年 では、 289 人の増加、

2040年 では、 665 人の増加が見込まれます。



(3)子どもの数

- 子どもの数のグラフは右ページのようなグラフになっています。グラフのつくりは、現況シート、将来予測シート①と同じですが、2025年からは、将来予測シート①でのこれまでの傾向が続いた場合の予測結果と、移住受入を進めた場合の予測結果が並べて表示されています。
- 例えば、右ページのグラフからは、以下のようなことが読み取れます。

<グラフから読み取れることの例>

- 先に示した移住者数を受入れ続けることで、小学生数は2030年まで減少するものの、2035年には増加に転じ、2040年は2020年よりも多い生徒数となる。
- 一方、中学生数は2035年までは減少するが、2040年には増加に転じる。

なお、高齢者の数、人口ピラミッドも将来予測シート①と同様のグラフとなっています。将来予測シート①を参考に、グラフをご覧ください。

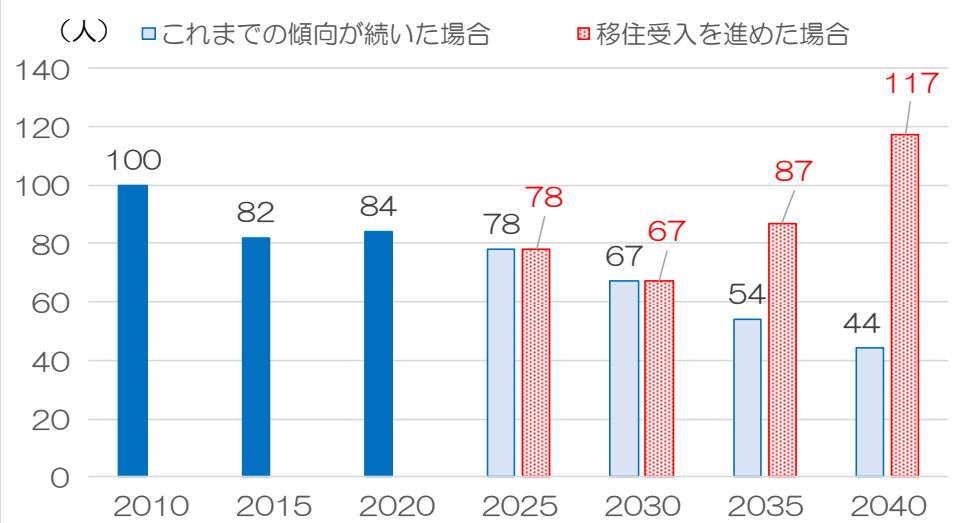
【将来予測シート② 子どもの数のグラフ】

②子どもの数

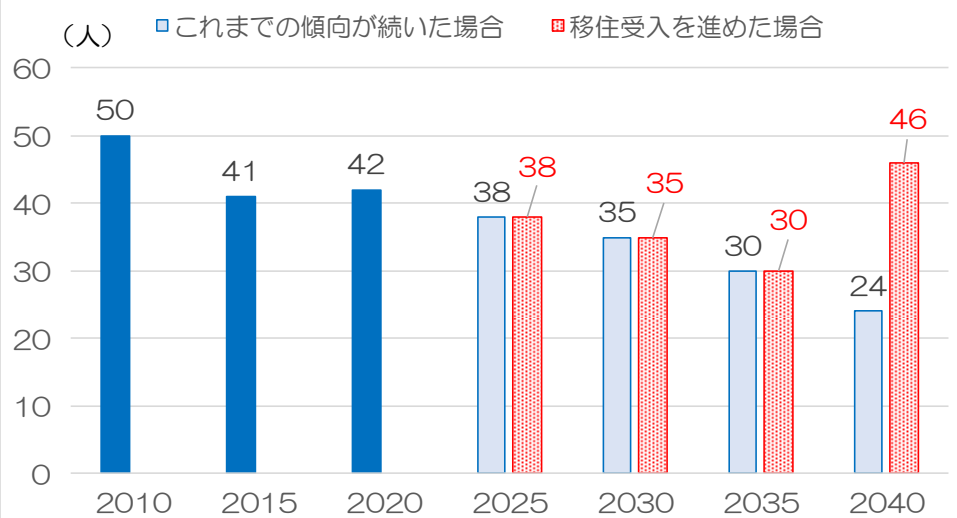
2040年 には、
 小学生にあたる7～12歳の人口は、 117 人、
 中学生にあたる13～15歳の人口は、 46 人と
 予想されます。

これまでの傾向が続く場合に比べ、
 小学生は、 +73 人、
 中学生は、 +22 人が見込まれます。

小学生数の推移グラフ



中学生数の推移グラフ



5. 地域特徴シート

「地域特徴シート」には、世帯構成、居住期間、転入者、産業別就業者の割合、通勤通学先割合に関するグラフが示されています。なお、地域特徴シートにおけるグラフ、数字は令和2年（2020年）の国勢調査結果に基づくものです。

①世帯構成

○世帯構成として、65歳以上の方がいる世帯の割合、65歳以上の一人暮らしの世帯の割合に関するグラフを示しています。また、お住まいの地域の値を、市町村および県の平均と比較できるようになっています。

○グラフから、お住まいの地域が市町村全体や県全体と比較し、高齢者の一人暮らしが多い地域であるか等を確認できます。

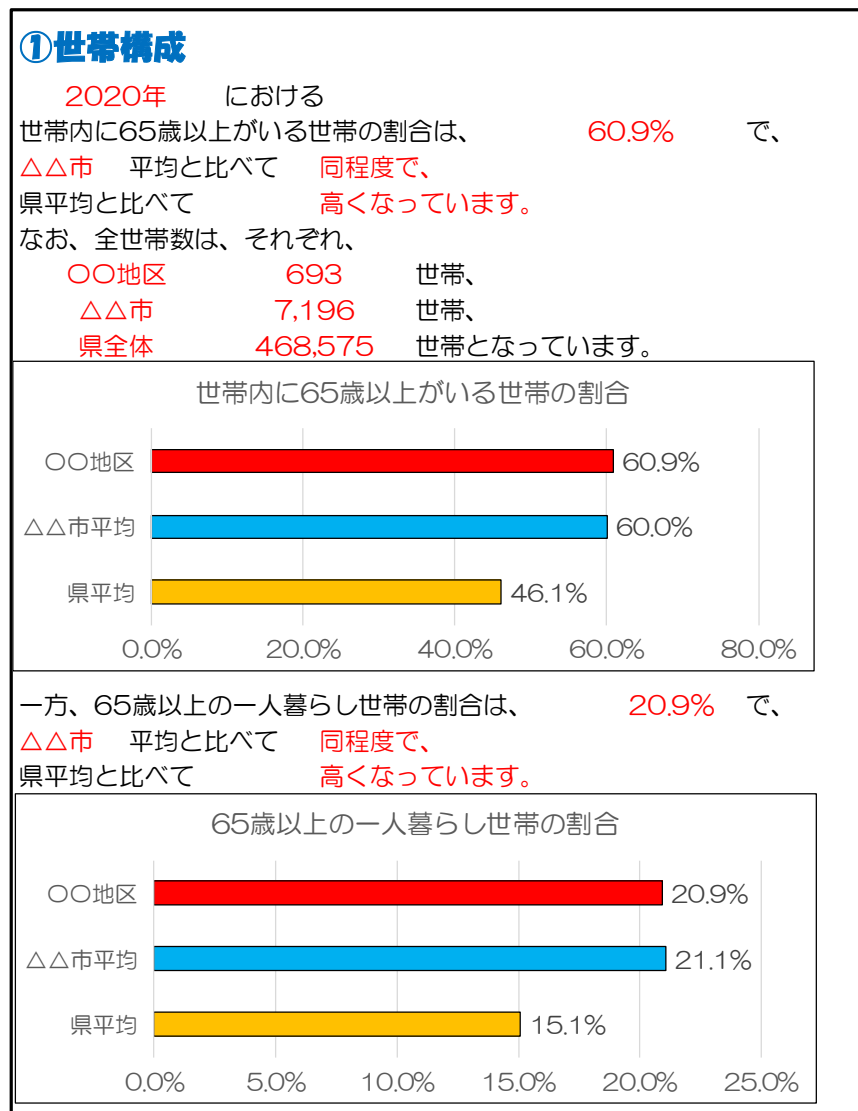


図 地域特徴シートにおける世帯構成に関するグラフ

②居住期間

○居住期間として、地域にお住まいの期間が10年未満の人の割合をあらわしたグラフを示しています。この割合が高いと新しい方が入ってきている地域、低いと昔から住み続けている方々が多い地域ということになります。

○グラフから、市町村全体や県全体と比較し、お住まいの地域が新しい方が入ってきている地域なのかどうかを確認できます。

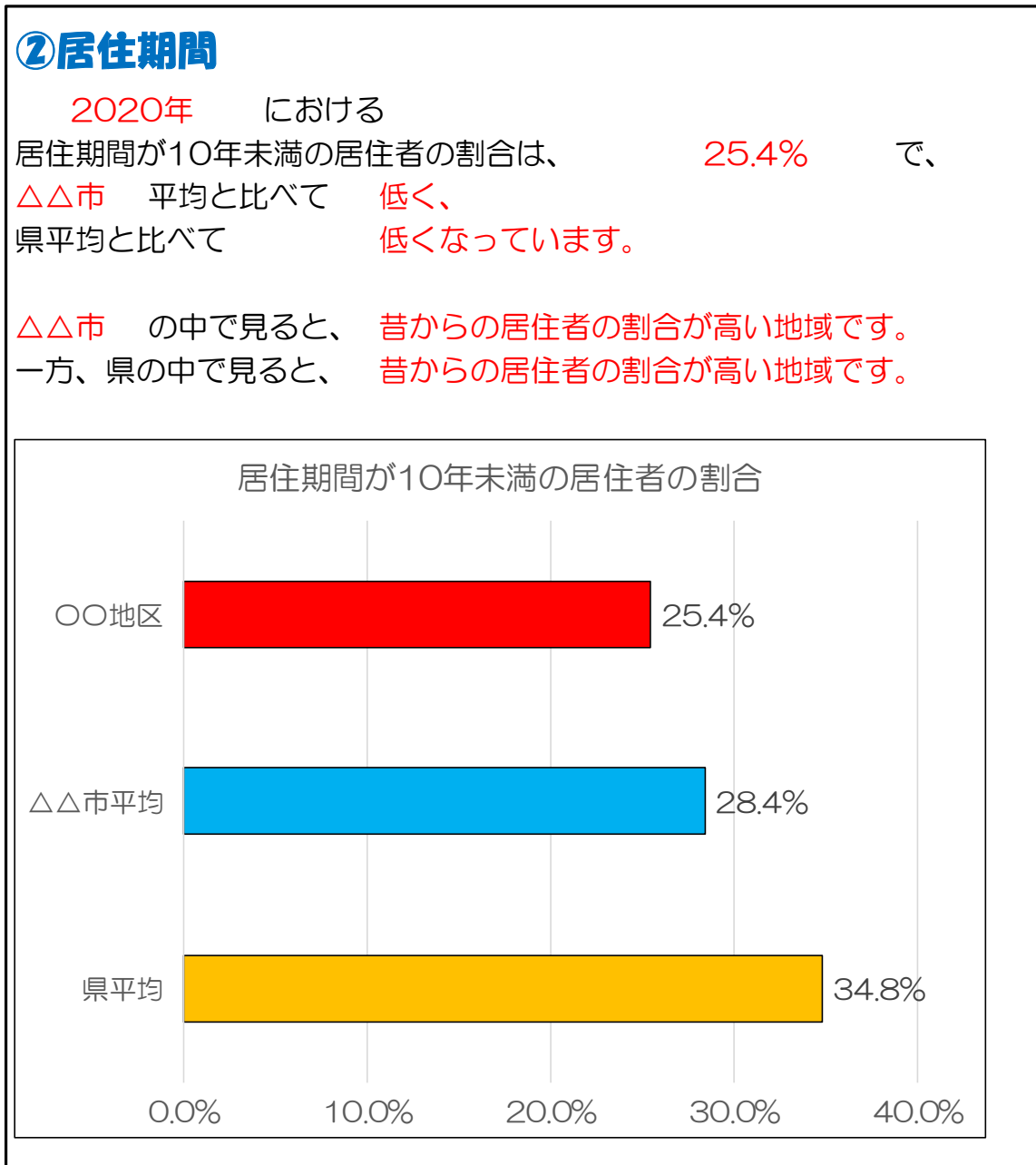


図 地域特徴シートにおける居住期間に関するグラフ

③転入者

○2015年から2020年の間に地域に転入してきた人数および転入者のうち県内各市町村からの割合、県外からの割合がグラフ上のコメント内に表示されています。

○また、転入者の内訳として女性の構成割合をグラフで示しています。グラフから、お住まいの地域が市町村全体や県全体と比較し、転入者の内訳として男性が多い地域なのか、それとも女性が多い地域なのかを確認できます。

③転入者

ここ5年間における転入者数は、**277** 人です。
県内各市町村からの転入者の割合が **12.3%**、
県外からの転入者の割合が **13.4%** です。
転入者の性別構成は、
男性：女性＝ **0.36** : **0.64** です。

△△市 中で見ると、**女性の転入者割合が高い地域です。**
一方、県中で見ると、**女性の転入者割合が高い地域です。**

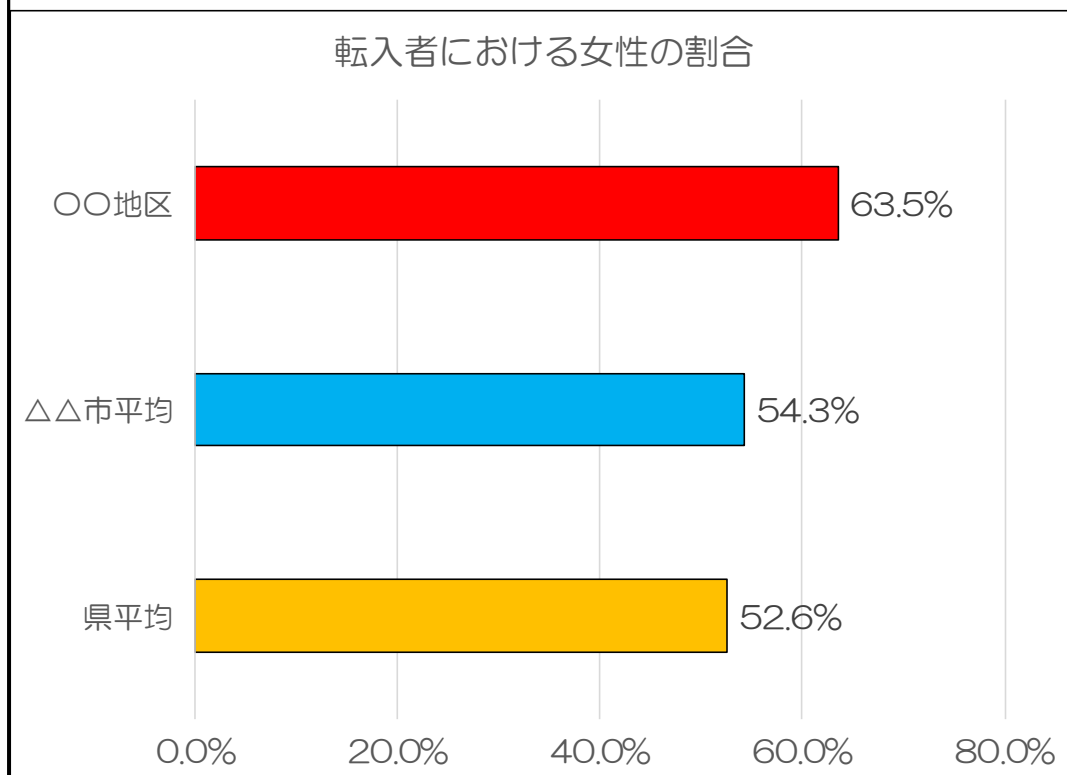


図 地域特徴シートにおける転入者に関するグラフ

④産業別就業者の割合

○地域にお住まいの方々がどのような職業につかれているかを表す産業別就業者の割合に関するグラフが示されています。グラフは、2020年の国勢調査結果に基づくものです。

○グラフから、地域の方々がどのような職業で生計を立てているのか、市町村全体や県全体と比較しどのような特徴があるのかを確認することができます。

④産業別就業者の割合

2020年 における
産業別就業者の割合は、次のとおりです。

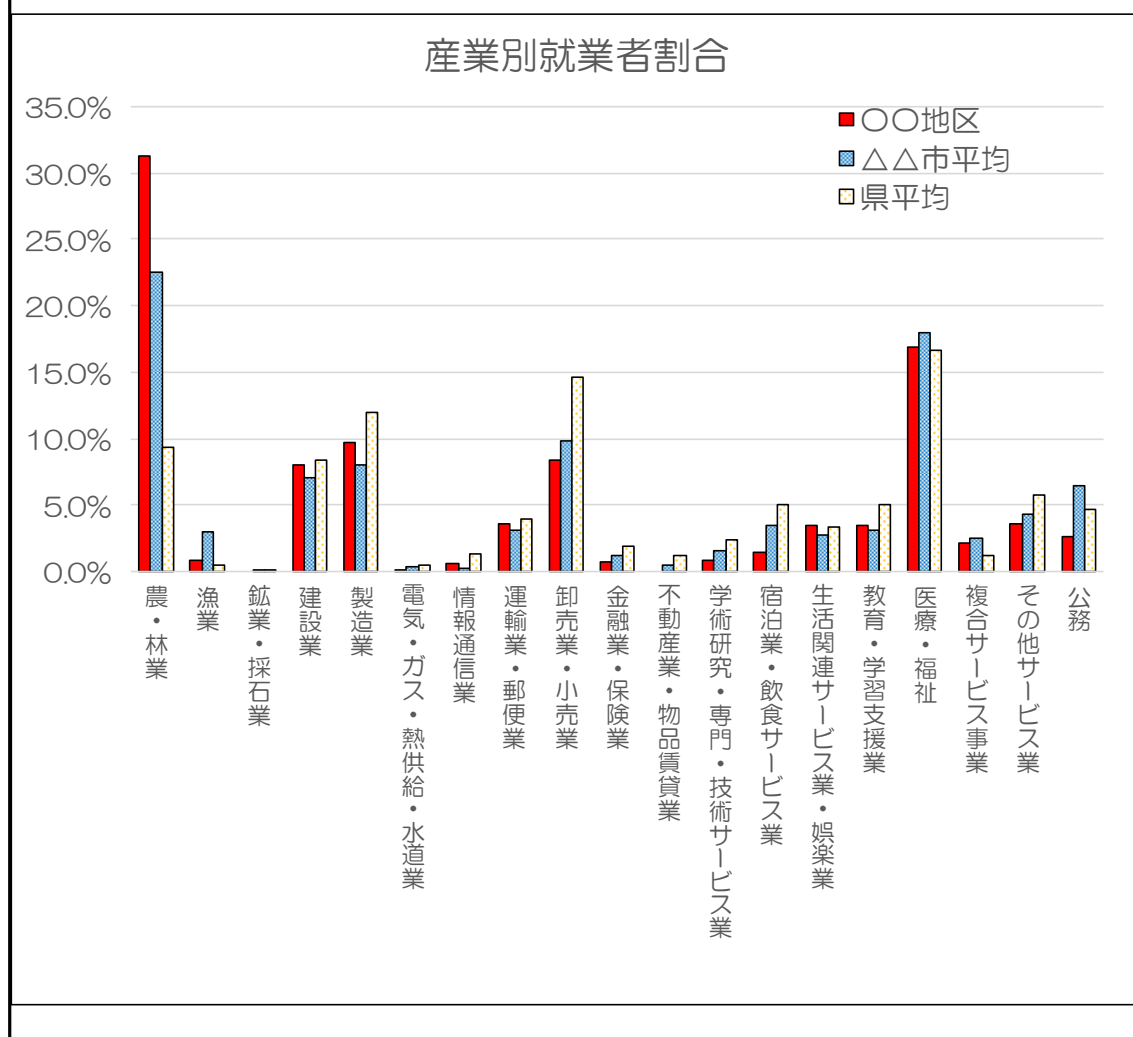


図 地域特徴シートにおける産業別就業者割合に関するグラフ

⑤通勤通学先割合

○地域にお住まいの方々の通勤先、通学先が市町村内である割合がグラフ上のコメント内に示されています。

○通勤先の市町村内割合については、グラフでも示しています。グラフから、市町村全体や県全体と比較し、お住まいの市町村内で働く方が多い地域なのかどうかを確認することができます。

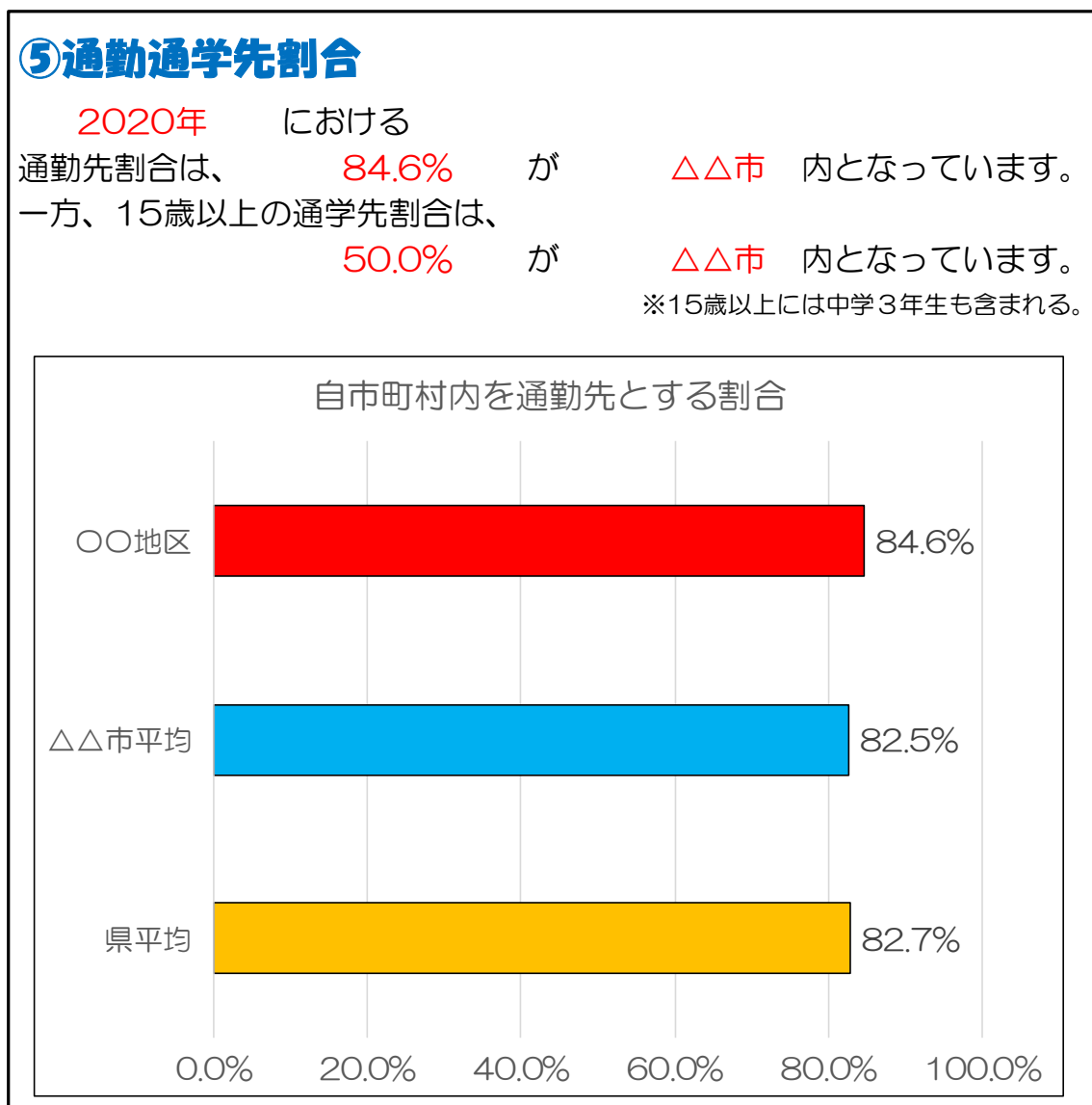


図 地域特徴シートにおける通勤先が市町村内である割合を示すグラフ

活用編

1. 応援シートを活用した地域での話し合い

ここでは、応援シートを活用し、地域で話し合い（ワークショップ）を行う場合の進め方や、話し合いのポイント等を説明します。

【全体の流れ】

ステップ1 話し合いの場を設定します。地域の幅広い方々が参加しやすい工夫をしましょう。

ステップ2 応援シートを活用して地域の課題などを皆で話し合います。

①「**現況シート**」で地域の現状を可視化

地域におけるこれまでの人口推移のグラフなどを見ながら、地域が抱える現状の課題について話し合ってみましょう。

②「**将来予測シート①**」で地域の未来を可視化

これまでの人口推移の傾向が続いた場合、10年・20年後の地域の総人口や子どもの数はどうなるかを見てみましょう。また、どのような問題が深刻化しそうか話し合ってみましょう。

③「**将来予測シート②**」で地域の人口維持の目安を知る

現状の人口規模を維持するためには、どの程度の移住者数が必要かを見てみましょう。また、現実的な移住者数はどの程度か、移住を受け入れる上で何が課題かを話し合ってみましょう。

④「**地域特徴シート**」で地域の強み・弱みを知る

自分たちの地域が、市町村内や県内の他の地域と比べ、どのような特徴があるか、グラフや数字から話し合ってみましょう。

⑤**地域の目標を定め、そのための活動体制を確立**

地域の人口維持や活性化のため、自分らに何ができるか、地域の目標とその達成に向けた活動体制について話し合ってみましょう。

必要に応じて何度も話し合いを行います。

図 応援シートを活用した地域での話し合いの流れ

2. ステップ1 – 準備編 –

ポイント1 幅広い世代の方々の参加を募りましょう！

地域の現状や将来の課題を話し合う上で、地域にお住まいの様々な方々の意見が重要になります。年齢や性別、職業が偏らないように参加者を募集しましょう。

特に現在、地域活動の中核を担っている次の世代や、若者、子育て中の方、移住者の方などの積極的な参加を促す必要があります。

ポイント2 参加しやすい時間や場所を設定しましょう！

幅広く呼びかけても設定した時間や場所が、子育て中の方や学生などが参加しにくいものとなっては折角の機会が台無しとなります。参加しやすい工夫をしましょう。

ポイント3 進行役の人を決めましょう！

話し合いの進行役の人を決めましょう。進行役は、【ステップ2-話し合い編】を参考に、話し合いの流れを確認しましょう。

ポイント4 必要な備品を準備しましょう！

話し合いの際に必要なものとして以下があげられます。

- ひなたまちづくり応援シートを印刷したもの
 - 模造紙
 - 付箋紙
 - マジック
- } 話し合いで出された意見やアイデアを書いていきます
- 地図（ハザードマップや要支援者のマップを作成している場合は、それも用意しましょう）
 - （できれば）応援シートが保存されたパソコン、プロジェクター、スクリーン

3. ステップ2－話し合い編－

ポイント1 どのような意見も大事にしましょう！

それぞれ皆、立場や環境が違えば出てくる意見も様々です。出された意見は否定せず、それぞれの意見やアイデアを尊重するようにしましょう。（話し合いの最初に「話し合いのルール」として、進行役が参加者に周知しましょう）

ポイント2 地域の課題を具体的に書き出してみましょう！

地域の現状や課題を認識し、そこから見えてくる「将来の姿」を自身の問題と捉えなければ実りある話し合いにはなりません。

日頃漠然と感じていることを、この応援シートで具体化しましょう。

ポイント3 自分たちでできることを探しましょう！

将来に備えて、今からやっておいた方がよいこと、自分たちでできること、誰かの助けを借りる必要があることを整理しましょう。

その際、「ないものねだり」ではなく「あるもの探し」をする姿勢が大切です。

ポイント4 何度も話し合いをしましょう！

一度の話し合いで結論ができるようなことではありません。何度も話し合いを継続し、具体的なものへと皆で作り上げていくことが大切です。

【話し合いのすすめ方】

① 「現況シート」で地域の現状を可視化

<ねらい>

漫然と感じている「私の地域は今どうなっているの？」を知るために、まずは、地域の「今」を数字で確認しましょう！

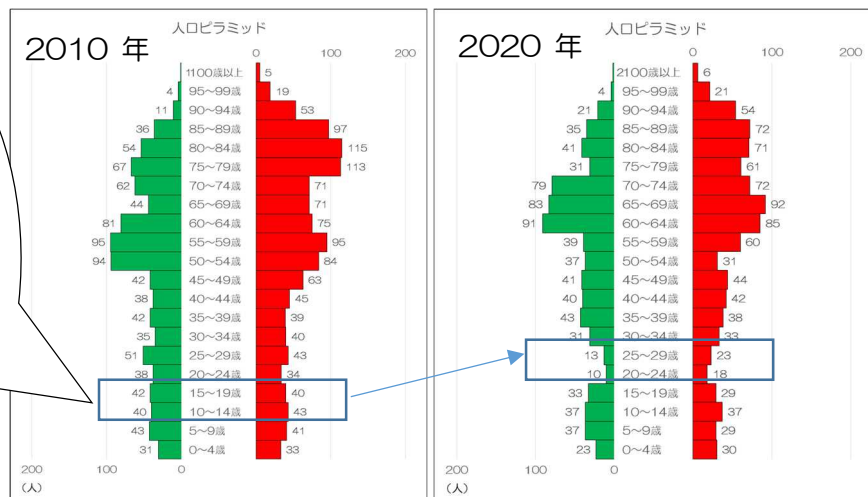
- 「現況シート」を使って、日頃、漠然と感じている少子高齢化の影響を地区・集落単位で具体的に感じ取ってください。
- 「総人口の推移」「子どもの数の推移」「高齢者の割合の推移」を見ながら、地域が抱えている課題を話し合ってみましょう。

視点



この地域の人口が減少しているのはどの世代だろう？

2010年に10代だった人たちが10年後に20代になると、その人数が大きく減少している！何が原因だろう？



あなたの身の回りに一人暮らしの高齢者はどれくらいいるだろう？

その方々は何に困っていますか？

どういう支援を必要としていますか？



地域の人口規模が大きい場合は、今は困っていなくても今後も同じとは限らないことを意識しましょう！

【現況シートを活用した話し合いのすすめ方（進行役の台詞例）】

● 応援シートの説明

（総人口のグラフを見ながら）

- それではまず、わが地域のこれまでの人口推移を確認してみましょう。
- 2020年現在、[]人となっていますが、2010年と比べると[]人減少しています。

（子どもの数のグラフを見ながら）

- 小学生、中学生は、2020年現在、それぞれ[]人、[]人です。2010年と比べるとそれぞれ[]人、[]人減少しています。

（高齢者の割合のグラフを見ながら）

- 65歳以上の方の割合は、[]%となっており、2010年に比べると[]ポイント上昇しています。

（人口ピラミッドを見ながら）

- 2010年に比べると、2020年は人数が多い層が[]歳代に移ってきています。
- また、2010年に10代だった人たちは2020年には20代になりますが、その人数は[]割も減っています。

● 議論の投げかけ

- 高齢者の方が非常に増えましたが、みなさんの周りで高齢の方が困っていることとして、何か聞いたことはありませんか？
- 子どもが減ってきましたが、子ども会の活動で何か問題は生じてきていませんか？
- 人口が減少してきたことで、消防団や婦人会の活動で何か問題は生じていませんか？
- 10代から20代になる過程で人口が減少していますが、その理由としては何かあるでしょうか？



出た意見を付箋に書き取り、それを模造紙（みんなが見えるところに貼っておく）に貼っていきましょう。（書き取る役割の人を決めておくか、もしくは各自意見を付箋に書いてもらいましょう）

②「将来予測シート①」で地域の未来を可視化

<ねらい>

このままの状況が続くと地域の人口はどうなっていくのかなどを数字やグラフで確認しましょう！

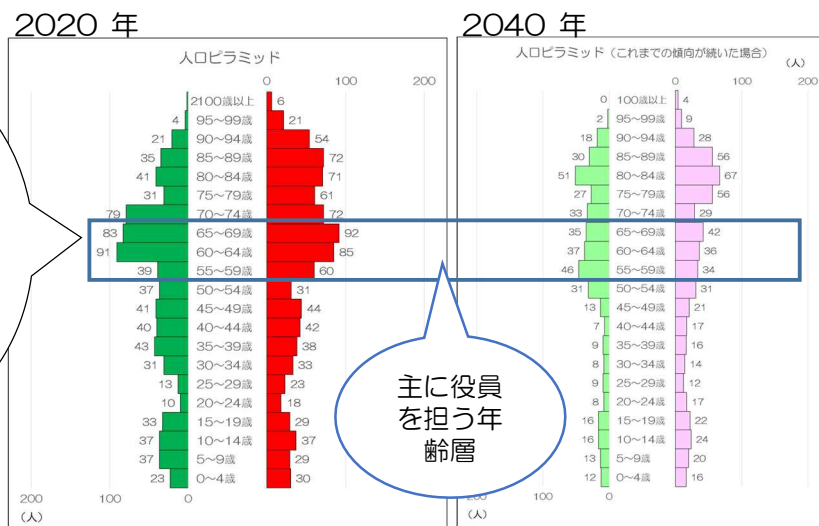
- 「将来予測シート①」を使って、10年後、20年後の地域の姿を確認しましょう。
- 「総人口の推移」「子どもの数の推移」「高齢者の割合の推移」を見ながら、地域にこれから起こりうる課題を話し合ってみましょう。

視点



地域の役員を担う年齢層は、2040年は何人になるだろう？

主に役員を担う年齢層の人数が非常に少なくなる。1人の負担が大きくなるのではないかな？



主に役員を担う年齢層



草刈りやイベント(お祭り、敬老会など)を担う年齢層は何人になるだろう？

地域の人だけでやっていたらいけるだろうか？

隣の地区と合同で行うなどの対応も必要？



「これまで」と「これから」は違うことを意識しながら話し合おう！

【将来予測シート①を活用した話し合いのすすめ方（進行役の台詞例）】

● 応援シートの説明

（総人口のグラフを見ながら）

- ・次に、これまでの人口推移の傾向が今後も続いた場合、10年後、20年後の地域はどのようになるかを見てみましょう。
- ・2040年には総人口は[]人になる見込みです。2020年と比べると[]人減少します。

（子どもの数のグラフを見ながら）

- ・小学生、中学生は、それぞれ[]人、[]人になる見込みです。2020年と比べるとそれぞれ[]人、[]人減少します。学校の存続が問題になる可能性が高いです。

（高齢者の割合のグラフを見ながら）

- ・65歳以上の方の割合は、[]%になります。

（人口ピラミッドを見ながら）

- ・2040年は、2020年に比べ高齢層が多く、若い世代が少ないという傾向がより顕著になります。
- ・自治会の役員を担う年齢層や、地域の活動を担う年齢層が、2020年に比べると大きく減少します。

● 議論の投げかけ

- ・このような人口構成（ピラミッド）になった場合、今と同じような地域の活動を行っていくことは可能でしょうか？1人あたりの負担が大きくなりすぎませんか？
- ・もし小学校や中学校がなくなった場合、地域にどのような影響がでてくるでしょうか？
- ・バスなどの公共交通は継続できるでしょうか？
- ・地域にあるお店やガソリンスタンドはやっていけるだろうか？

③「将来予測シート②」で地域の人口維持の目安を知る

<ねらい>

「将来予測シート②」では、地域にどれくらいの人を呼び込めば人口減少の速度がゆるまるのか、目標設定ができるようになっています。

- 地域で受入可能と思われる移住者数を話し合ってみましょう。
- 「将来予測シート①」の結果と比較しながら、移住者受入を進めることで、地域のどのような問題が改善できそうかを話し合ってみましょう。

視 点

現在の人口規模を維持するとした場合に、どの程度の移住者受入が必要かを確認しましょう。



- 将来予測シート②では、2020年の人口規模を今後も概ね維持し続けようとした場合に、5年間でどの程度の移住者数を受入れないといけないかを、あらかじめ計算し、【参考】として示しています。
- 非常に多くの移住者を受入れなければならない地区もありますが、現状を保つとしたら、それぐらい外から人が入ってこないといけないという事実をまずは押さえてください。

そもそも地域として、移住者の受入を積極的に進めたいのか、みんなの意見を集約しましょう。



移住者を積極的に受け入れて行こう！

移住者の受け入れはちょっと心配。。。



地域として移住者を積極的に受け入れようという意見にまとまった場合は、現実的（外に出た地元出身者で戻ってきそうな人が何人程度いるか、移住者が使える住宅がどの程度あるかなどを考えながら）な移住者数を話し合ってみましょう！

【将来予測シート②を活用した話し合いのすすめ方（進行役の台詞例）】

● 応援シートの説明

（移住者数の設定にある【参考】を見ながら）

- ・2020年における全体の人口規模および小中学生の数を、今後も概ね維持し続けようとした場合、わが地域は、5年間で[]人を受け入れていかなければならないようです。

（移住者数の設定になる入力表に【参考】にある移住者数を入力）

（総人口のグラフを見ながら）

- ・このように移住者数を入力してみると、2040年も2020年と概ね同規模の人口になることが分かります。

（子どもの数のグラフを見ながら）

- ・また、子どもの数もこのように維持できる結果になります。

（高齢者の割合のグラフを見ながら）

- ・65歳以上の割合も[]%程度に抑えることができます。

● 議論の投げかけ

- ・さて、今見たように、[]人も移住者を受け入れなければ、2020年時点の人口規模を概ね維持できないというのがわが地域の実態です。そこでまず、本当にわが地域は移住者を積極的に受け入れていくのか、皆さんの意見はどうでしょうか？

（受け入れていきたいという意見となった場合）

- ・それでは、どのくらいの移住者数が現実的でしょうか？（出された数を入力表に入力し、推計結果を確認する）
- ・移住者を受け入れる、空き家が地域内にありますか？
- ・移住者が地域に溶け込みやすくするためには世話役的な人が必要ですが、誰がそのような役に適任でしょうか？

（受け入れていきたくないという意見となった場合）

- ・わが地域は、どうやって地域の維持や活性化を行っていきましようか？
- ・観光で人を呼ぶとしたら何が必要でしょうか？
- ・隣の地域と今から連携・話し合っておくことはないですか？

④ 「地域特徴シート」で地域の強み・弱みを知る

<ねらい>

自分たちの地域は、市町村内や県内の他地域と比べて、どのような特徴があるのかを確認し、地域にとっての「強み」「弱み」は何かを考えてみましょう。

- 「地域特徴シート」には、世帯構成、居住期間、転入者数、産業別就業者数などのデータを市町村平均および県内平均と比較したグラフなどを掲載しています。それらをみながら、自分たちの地域は他と何が違うのかを確認しましょう。
- また、地域の宝（資源）や大事にしたい景色がある場所を、地図に落としながら、それらを現在うまく活用できているかを話し合ってみましょう。

視 点



居住期間が長い人が多い地区なのか、それとも新しい人が多い地区なのかを確認しましょう。

わが地区は、他の地域と比べると、昔から住んでいる人の割合が高い地域なんだ。住民の連帯感が他の地域よりも強いということが“強み”にできるのでは？



男性の転入者が多いのか、女性の転入者が多いのかを確認しましょう。

転入者の女性の割合が低いなあ。なぜだろう。



就業者の割合が高い産業は何かを確認しましょう。

地域を代表する産業として、企業と地域が連携して若者を呼び込むことはできないだろうか？



地域の宝（資源）や大事にしたい景色など、応援シートだけでは網羅できない地域の特徴（強み）を、地図を見ながら出し合ってみましょう。

【地域特徴シートを活用した話し合いのすすめ方（進行役の台詞例）】

● 応援シートの説明

（地域特徴シートを見ながら）

- それでは、わが地域と市町村内、県内他地域とを比較して、何がわが地域の特徴かを考えてみたいと思います。
- まず、世帯構成です。わが地域は、他地域に比べ 65 歳以上の方がいる世帯割合が[]なくなっています。また、65 歳以上の一人暮らしの割合は、他地域に比べると[]なくなっています。
- 次に居住期間ですが、わが地域は居住期間が 10 年未満の人の割合が[]い地域、すなわち新しい人が入って[]い地域です。
- 転入者の男女割合は、女性の割合が[]い地域です。
- 産業別就業者の割合を見ると、[]に従業している人が多い地域と言えます。

● 議論の投げかけ

（応援シートに関連した投げかけ）

- 今見たように、わが地域は、女性の転入者の割合が高く（低く）なりましたが、この理由として何が考えられますか？
- 10 年未満の居住者割合が低い（高い）結果になっていましたが、新しい人が入ってきづらい（やすい）のでしょうか？
- []に従事している人が多い地域ですが、若い人もこの仕事に就いてますか？就いていない場合、何が原因でしょうか？

（地域の宝等に関連した投げかけ）

- さて、応援シートは人口に関連した数字から地域の特徴を見ましたが、地域にある資源もわが地域を特徴づけるものです。資源として何かがあるか話し合い地図に落としてみましよう。
- 現在、これらの資源をうまく活用できているのでしょうか？活用できていない場合、何が問題でしょうか？

⑤ 将来への備えをまとめてみましょう！

<ねらい>

ここまでの議論をふりかえって、地域の維持・活性化に向けて、まず自分たちにできそうなこと（活動）は、何かを出し合い、それを行っていく上での体制をどうするか、行政にサポートして欲しいことは何かを話し合みましょう。

視 点



自分たちでできることはなんだろうか？
はじめの一步が将来の大きな一步につながります。
まず、「できること」から考えてみましょう。



高齢者の増加はしばらく続きます。
できるだけ長く活躍してもらうためには、どうしたらよいでしょうか？



若い世代の数は少なく埋没しがちです。
世代間のバトンタッチをうまくつないでいくためには、場の設定を含め、どのようなことが必要でしょうか？



まわりに連携・協働できる人や団体はありませんか？
そのような方々との協力関係を築いていくことも大切です。

【おわりにシートを活用した話し合いのすすめ方（進行役の台詞例）】

●議論の投げかけ

（おわりにシートを見ながら）

- それでは、ここまでの議論をふりかえって、
- まず、地域の維持・活性化に向けて、まず自分たちでできそうなこととして何かあるでしょうか？
※模造紙に貼ってある意見を見ながら、進行役が「こういう意見がありました、こういうことだったらできそうですか？」と呼び水すると意見が出やすい。
- そのような取組をするために、今の仕組みで変えておくこと、新しく作っておくことがありますか？（例えば、若い人にも地域の役員の役割を担ってもらえるように、役割を細分化し、1人あたりの仕事量を減らすなど）
- 取組を進めるために、どのような体制でやっていくのが良いでしょうか？（例えば、現在の自治会組織をそのまま活動の組織とする、自治会組織とは別の組織とするなど）
- 取組を進める上で、自分たちでは難しいこととしてどのようなことがあるでしょうか？（出た意見については行政側でサポートができないかを検討してもらう）

1回の話し合いでは、実行性のある取組（活動）を見出すまでには至りません。何度も何度も話し合いを重ね、そして、「誰が」、「いつ」、「何をやるか」まで取組の段階を決めていくことが重要です。

今動きはじめることが、子どもたちや孫たちが地域に残ってくれる、戻ってきてくれる、新しい人が入ってきてくれるための大きな一歩になります。

ふるさとを残していく取組をみんなで考えませんか？

ひなたまちづくり応援シート 利用の手引き ver2.0

宮崎県 中山間・地域政策課

